

令和 6 年 8 月 定例教育委員会 会議録

◇開 会 令和 6 年 8 月 2 9 日 (木) 午前 9 時 0 0 分
 ◇閉 会 令和 6 年 8 月 2 9 日 (木) 午前 1 0 時 0 6 分
 ◇会 場 教育委員会会議室
 ◇出席者 教育委員会

・教育長	片 山 則 昭
・教育長職務代理者	吉 竹 主 税
・教育委員	上 羽 裕 樹
・教育委員	中 川 卯 衣
・教育委員	湊 上 智 帆
・教育部長	足 立 勲
・教育部次長兼学校教育課長	山 本 浩 史
・学校教育課参事	小 森 真 一
・教育総務課長	足 立 安 司
・社会教育・文化財課長兼文化財係長	小 畠 崇 史
・恐竜課長	松 枝 満
・教育総務課副課長兼企画総務係長	足 立 真 澄
まちづくり部	
・まちづくり部長	谷 水 仁
・文化・スポーツ課長	木 村 成 志
・人権啓発センター所長	堂 本 祥 子
・市民活動課長	山 内 邦 彦

(片山教育長)

おはようございます。台風が近づいてきております。これからどういう進路になるのか分からない状況なのですが、幸い今日は大丈夫ということで、8月の定例教育委員会を今から開催したいと思います。十分気をつけていただきたいと思います。

それでは、会の進行上、発言の際には、必ず氏名を名のってから発言していただきますよう、お願いいたします。

日程第 1

前回会議録の承認

(片山教育長)

日程第 1 前回会議録の承認についてですが、7月25日の定例教育委員会会議録の承認は、吉竹教育長職務代理者と上羽委員にお願いいたしました。

日程第 2

会議録署名委員の指名

(片山教育長)

日程第 2 会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録の署名は中川委員と湊上委員にお願いいたします。

日程第 3

教育長報告

(片山教育長)

日程第 3 教育長報告に入ります。1 ページをご覧ください。

7月25日の定例教育委員会、同日、東小学校の児童が12名、オーストラリアに10日間ぐらいホームステイする行事をやっておりまして、その壮行会に行ってきました。主に6年生の子が行くという話で、元気に出発して帰ってきました。

26日は令和7年度の市町立学校管理職等候補者、校長、教頭の丹波市教育委員会推薦者選考試験、第2次面接試験を行いまして、校長8名、教頭8名、受験されました。それから、夜、兵庫県中学校総体レセプションが尼崎

でありました。中学校のいわゆる県大会ということです。丹有地区と阪神地区が当番でしたので、挨拶に行ってきました。

27日は土曜日ですが、第71回兵庫県人権教育研究大会丹波地区大会に、市長とともに参加してきました。新井先生の講演を聴いて帰ってまいりました。それから、同日ですが、植野記念美術館で、開館30周年記念手塚治虫展開幕記念イベントに行ってきました。有名な漫画家ですので、たくさん来られておりました。

28日、この辺から各地区の夏祭りが始まりまして、この日は令和6年度いちじま川裾まつり、小学校でいいますと、吉見小学校区です。

29日、丹波市学校管理職等候補者、先ほどの教育委員会推薦者の選考についての協議を行いました。それから、同日ですが、第10回丹波市教育振興基本計画の審議会を開催しました。

30日、令和6年度学校給食センター見学会ということで、親子連れで約50名少しが見学をして、説明を聞いて、試食をして、おいしかったということで、満足して、皆、帰って行かれました。作っておられるところ、実際、子どもたちが見るのもいい経験かなと。よかったです。

31日水曜日は、第1回丹波市いじめ問題対策連絡協議会がございました。夜には、ケント市・オーバン市「若き親善大使」の壮行会が、柏原のベルピーマンでありました。

8月1日は政策会議で、主な内容は、丹波市の第3次の教育振興基本計画、健康たんば21、丹波市こども計画等についての審議が行われました。続いて第1回丹波市男女共同参画推進本部会議がございました。それから、環境施策推進会議も続けてありました。

また、柏原高校の魅力アップ推進協議会オープニングイベントということで、黎明館で大阪大学発案の大学体験ボードゲームイベントが行われまして、参加してきました。柏原高校の生徒が20人ほど参加していきまして、大変楽しそうに過ごしていました。それから、兵庫パルプ工業株式会社、毎月1回の情報交換会です。

2日は、丹波市中学校人権学習交流集会ということで、これは子どもたちが自主的にやっております、非常にいい会で、全員参加ではないのですが、市島のライフピアであったのですけれども、自分たちが進行して、自分たちが発表して、自分たちが話し合って、また発表するというような中身の内容でした。非常にいい取り組みだなという感想です。

4日は、柏原高校の音楽の先生で、内田修二先生の記念音楽会、たくさんのグループの方が来ておられて、演奏なり歌なり歌っておられました。

5日は、死亡叙位叙勲の伝達に行っていました。6日は、教育部の管理職会議で、先ほど言った政策会議の中身を主に話し合いました。それから、令和6年度の春の叙勲伝達、1名、渡しに行っていました。

7日は、総務文教常任委員会がありまして、その同日に指導主事の採用候補者、それから、今度、丹波市教育委員会推薦者の選考試験、面接試験1名、1名だけですが、指導主事の試験を行いました。それから、夜は丹波市自治会長会の懇親会に出ました。

14日の日は本当に暑かったのですが、鴨庄地区で行われるお祭りで案山子がいっぱい作ってあるのですけれども、それに教育長賞というのがあるので、採点に行っていました。16日は、高齢者叙勲伝達を2名、行っていました。17日は、今度10月に群馬県の神流町というところへ行く竜学、8名の説明会と任命式を行いました。

18日は夜、鴨庄のふるさと夏祭り、盛会でした。19日は、小学校の校長先生の代表者が来られて面談を行いました。話し合いです。21日は、第11回の丹波市教育振興基本計画審議会が行われまして、少しずつまとまりつつあります。順番に行っております。

２２日と２３日は、吉竹委員それから中川委員にもお世話になったのですが、１泊２日で全県夏季教育委員会研修会、講義３連発ということで、大変、中身の濃い講義を３つ聴いてきました。

２４日は、今度は成松の愛宕祭に参加して、２５日は、これ昼間ですけど、生郷ふるさと音楽祭ということで、東小学校が音楽隊を持っていますので、それを中心に柏原高校のブラバンだとか、氷上町のブラバンと一緒に演奏されました。

２７日は、今度、帰ってきたケント市・オーバン市の「若き親善大使」の報告会が夜、ございました。みんな、いろいろな経験ができたということで、喜んで帰ってきました。

それから、今日、定例教育委員会、この後、引き続きですが、１１時から令和６年度第１回の丹波市総合教育会議がございます。よろしくお願いいたします。明日ですが、県立高校の高等学校教職員組合丹波支部が面談にやっけてまいります。

以上でございます。それでは、ただいまの教育長報告について何か質問はございませんか。

ないようでしたら、教育長報告を終わります。

日程第４

議事

議案第４３号 丹波市学校給食管理運営に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について

(片山教育長)

日程第４ 議事に入ります。

議案第４３号、丹波市学校給食管理運営に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について、事務局より説明をお願いいたします。

(足立教育総務課長)

それでは、議案第４３号、丹波市学校給食管理運営に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について、ご説明を申し上げます。資料は３ページをご覧ください。

新旧対照表となりますが、丹波市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則第３条の夏季休業日の期間が７月２２日から８月３１日までに改正されたことに伴い、８月の学校給食の提供がなくなったため、丹波市学校給食管理運営に関する要綱第７条、給食費の徴収、第１項ただし書になりますが、「ただし、８月については、翌々月の２７日を口座振替日として徴収する。」というものを削除するものです。

以上、簡単ではございますが、丹波市学校給食管理運営に関する要綱の一部を改正する要綱の制定についての提案説明とさせていただきます。

(片山教育長)

それでは委員から何か意見、質問はありませんか。

なければ、採決いたします。議案第４３号、丹波市学校給食管理運営に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について採決いたします。同意される委員の挙手を求めます。

(賛成者 全員)

(片山教育長)

挙手全員です。よって、議案第４３号、丹波市学校給食管理運営に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について承認いたします。

議案第４４号 丹波市教育委員会後援名義の使用承認について

(片山教育長)

続きまして、議案第44号、丹波市教育委員会後援名義の使用承認について、事務局より説明をお願いいたします。

(足立教育総務課長)

それでは、議案第44号、丹波市教育委員会後援名義の使用承認についてご提案申し上げます。

今回の審議案件は3件でございます。資料5ページの丹波国際映画祭実行委員会が主催されます第2回丹波国際映画祭です。実施日は令和6年9月13日金曜日から10月14日月曜日です。資料6ページは行事説明書、資料7ページはチラシ、資料8ページは団体の概要、資料9ページは予算表となっております。なお、昨年度から2回目の申請となっております。

次に、資料10ページのコモーレ丹波の森専門店会が主催されますミーツ丹波でございます。なお、この行事名称についてはミーツ丹波としてありますが、資料の13ページを見ていただくと、このミーツ丹波そのものについては参加事業体がたくさんありまして、それぞれ取りまとめの米印に書いてありますように、個別イベントについては所管する事業体が主催するということになっております。

今回、申請が上がってきておりますのは、コモレ丹波の森専門店会が主催される事業でございまして、資料の16ページをご覧ください。ミーツ丹波自体は、ほかにもたくさんイベントがあるのですが、ミーツ丹波のうち、コモレの会場で実施されます9月28日のものづくりはっぴいステージと9月29日に開催されますキッズチャレンジフェスタ、この2つのものについての後援依頼ということでございます。

戻っていただいて、ページの11ページから15ページは開催の概要でございます。先ほどの資料16ページから17ページはチラシ、資料18ページから23ページはコモレ丹波の森専門店会の会則、資料24ページは組織図となっております。

次に、資料25ページの一般社団法人こども未来ラボ（主催）の「キッズマネースクール おみせやさんごっこ はたらくってな〜に」でございます。実施日は令和6年10月12日土曜日で、会場は柏原住民センターです。資料26ページは開催要領、資料27ページから28ページはチラシの案、資料29ページは後援実績の一覧表です。資料30ページから32ページが定款、資料33ページは暴力団員等に該当しない旨の申告をした認証、資料34ページは役員名簿となっております。

いずれの事業も丹波市教育委員会後援名義使用許可に関する要綱第3条の許可条件に適合しており、かつ要綱第4条の許可の制限に該当していないことから、許可決定が妥当と判断をしております。

以上で丹波市教育委員会後援名義の使用承認についての提案説明とさせていただきます。

(片山教育長)

それでは、委員から何か意見、質問はありませんか。よろしいですか。

なければ、採決いたします。議案第44号、丹波市教育委員会後援名義の使用承認について、を採決いたします。同意される委員の挙手を求めます。

(賛成者 全員)

(片山教育長)

挙手全員です。よって、議案第44号、丹波市教育委員会後援名義の使用承認について承認いたします。

日程第5

報告事項

(1) 寄附採納報告

(片山教育長)	日程第 5、報告事項に入ります。 寄附採納報告について、お願いいたします。
(足立教育総務課長)	今回の報告は 3 件です。資料 3 5 ページでございます。竹山小学校に対しまして、旧竹田小学校 P T A 様よりプロジェクターを、資料 3 6 ページになりますが、同じく竹山小学校に対しまして、旧前山小学校 P T A 様より、運動場放送設備の寄附申出があり、これをありがたく採納することといたしました。続いて、社会教育・文化財課長より報告をいたします。
(小畠社会教育・文化財課長兼文化財係長)	3 7 ページをご覧ください。このたび丹波市立植野記念美術館に対しまして寄附の申出がありましたので、ご報告をいたします。 申出をいただきましたのは、京都府亀岡市にお住まいの木久依子様で、物件につきましては、安田鴨波、安田栗郷、安田虚心の親子三代による南画、計 2 1 0 点でございます。資料では別紙というふうに記載をしておりますが、大変、数が多くなりますので、今回は添付をしておりません。いずれも丹波市にゆかりのある画家の作品でございます。 評価額は当館所管作品、所蔵作品の評価額を参照いたしますと、総評価額が 1, 7 0 4 万 3, 0 0 0 円でございます。総額で 5 0 0 万円以上になると考えられるため、紺綬褒章の上申を念頭に、外部評価員 2 名に鑑定依頼をする予定となっております。 丹波市にゆかりがあり、市民にも親しみのある作家でありまして、当美術館におきましても、過去 2 回の展覧会を開催しております。今回の寄附申出を受けることで、よりコレクションが充実することになり、広く市民の皆さんへの公開、また市民の芸術文化活動への向上に役立てていきたいと考えております。以上で寄附の報告を終わります。
(片山教育長)	ただいまの報告につきまして、何か質問はありませんか。
(中川教育委員)	木久さんは血縁関係のある方なのですか。
(小畠社会教育・文化財課長兼文化財係長)	安田さんの血縁の方になられまして、今回、所蔵されている方、多分お亡くなりになったのかなと思うのですが、持っていて、ということなので、ゆかりのある丹波へ寄附をいただいたということです。
(片山教育長)	よろしいですか。ほか、ございませんか。 質問がなければ、寄附採納報告を終わります。 (2) 行事共催・後援等報告
(片山教育長)	続きまして、(2) 行事共催・後援等報告をお願いいたします。
(足立教育総務課長)	行事共催・後援等報告につきましては、資料 3 8 ページに掲載をしておりますとおり、第 7 1 回兵庫県吹奏楽コンクール西阪神地区大会をはじめ、全部で 5 件でございます。全て後援でございます。それぞれ丹波市教育委員会後援等名義使用許可に関する要綱に基づき、許可条件適合し、特に問題がないことと、公的または恒例の行事であるため、専決処分により許可をしたものでございます。以上、報告とさせていただきます。
(片山教育長)	ただいまの報告につきまして、何か質問はありませんか。 質問がなければ、行事共催・後援等報告を終わります。

(3) 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

(片山教育長)

続きまして、(3) 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の概要について、お願いいたします。

(山本教育部次長兼学校教育課長)

本年度の全国学力・学習状況調査の結果が7月末に公表となりましたので、その結果の概要についてお話しさせていただきます。ただ、詳細な分析については今後になりますので、速報ということで、ご確認ください。

まず、1、調査の目的について、要項に示してあるものを簡単に3点にまとめております。調査対象学年は例年どおり、小学校6年生と中学校3年生になっています。本年度の調査については小学校の国語、小学校の算数、中学校の国語、中学校の数学となっております。年度によっては英語や理科が行われることもあるのですが、本年度は国語と算数・数学のみということになっております。それと、教科に関する調査のほか、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も行われています。調査日に関しては、4月18日。実施状況ですが、全ての学校の6年生、中学3年生、欠席者以外は参加している状況にあります。

まず、調査結果の教科に関する調査です。小学校・中学校の全教科つまり4教科について全国の平均正答率と「ほぼ同程度（プラス・マイナス5ポイント以内の範囲）」でありました。令和5年度と比較すると、小学校国語、中学校国語、数学においては学力高位層が減少し、学力低位層が増加したと。算数においては学力高位層が増加し、学力低位層は減少するという結果となりました。あくまで、昨年度と比べてということです。全体的な概要といたしましては、4教科とも、いわゆる二極化の状況は見られないということが言えます。それから、1問も正答がなかったとか、1問しか正答がなかったという低位層は全国平均と比べて少ない状況にあります。ただ、中間層が非常に多くて、上位層が少ないという傾向が丹波市には見られます。

ページめくっていただきまして、各教科の内容についてです。白丸が成果、黒丸が課題と書いております。ただ、そこに書いております文章は、文部科学省が示しているその設問の趣旨を書いておりますので、本当にこのことがよかった原因、悪かった原因なのかということについては、正答や誤答の分析をしまして、今後、詳細に詰めていきたいと思っています。

小学校国語に関しては、上2つを成果として挙げているのですが、簡単に言いますと、物語文に対する正答率は高かったです。後半、課題として挙げているのは、今回、オンライン交流の通話記録みたいなところが問題として出されていて、そういった文章になっていないとか、会話文の分析みたいな、読み取りみたいなことがちょっと弱かったということが見られています。

もう1点は、その黒丸の一番下のところ、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」というのは、設問の趣旨としてあるのですが、結局その会話文の中で、こういうふうに修正しました。どこが工夫してあるか分かりますか、みたいな、そういう問題について、ちょっと課題が見られたということです。ただ書いてあることの読み取りではなくて、工夫した話し方とか工夫した文章の読み方というところに課題が見られたということです。

小学校算数です。成果といたしましては、「除数が小数である場合の除法の計算をすること」、「割合を読み取ること」と書いてありますが、上の問題は540割る0.6はいくらですかという問題ですとか、円グラフを見て何%ですかを読み取るみたいな問題は非常に全国よりも正答率が高かったです。ただ、黒丸のところ、簡単に言うと、文章の最後を書いてありますが、「考察すること」とか、「その理由を言葉や数を用いて記述すること」というのが弱

い傾向が見られます。つまり、与えられた問題を解くということではできるのですが、自分の考えの根拠を説明するとか、なぜこうなっているかということを説明するとか、そういうことが非常に弱いということが見られます。

中学校国語です。中学校国語に関しても、「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し」と書いてありますが、小学校と同様に、物語文についての読み取りは強い傾向が見られます。ただ、黒丸の部分、小学校と共通しての部分があるのですが、「文の成分の順序や照応についての理解」ということで、もうこれ問題そのものなのですが、「すぐに知りたいことを教えてくれるし」という文章があって、それを間違った伝え方になるかもしれないなと思って、「知りたいことをすぐに教えてくれるし」に変えましたと。どんな工夫が見られますかということを説明しなさいという文章なのですが、そういうことは非常に難しい。2つ目も、「あなたならどのように工夫して書きますか」という設問なのです。そういうところに弱さが見られるということ。これは小学校と同じ傾向が見られるなと思いました。

中学校数学です。「二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈すること」、簡単に言うと、一次関数の傾きの値を大きくしたら、どのグラフに変わりますか、みたいな正答率は全国より高かったです。ただ、「連続する 2 つの偶数を、文字を用いた式で表すこと」、これ一般的な説明のあれなのですが、 $2n$ と $2n+2$ と表せばいいのですけれども、そういうことを用いて説明するというようなことが非常に苦手、2つ目も、証明することが非常に苦手ということ。3つ目はデータの活用というふうに、新たな領域として中学校にこの学習指導要領から入ってきたのですが、ここは少し弱かったなと思いました。

今回、問題を見させていただいて気づいたのは、特に中学校数学について、文部科学省が求める学力感と学校で求めている学力というもののずれが生じているなと思いました。やっぱり中学校現場においては、全ての子の進路を確保するということがとても大切なことであって、いわゆる高等学校の入試の一番の問題をいかに解けるかというようなことに注力しているところがあります。今回の学力調査の問題において、次の方程式を解きなさいとか、次の角 x の大きさを求めなさいとか、そういった中学校で徹底してやろうとしている問題は 1 問も出ていません。それよりも、根拠を説明しなさいとか、あなたはどうか考えたかを説明しなさいといった、そういう問題が非常に、小学校・中学校を通じて多くなっていて、その辺のずれは出てきているなど。ただ、どちらも学力の一部でありますので、課題と捉えるかどうかというのは慎重に考えていきたいなと思っています。

2 点目です。質問紙調査から見える生活習慣や学習環境等に関することについて報告させていただきます。

まず、基本的な生活習慣、朝食を食べていますかというようなこととか、同じくらいの時刻に起きていますか、寝ていますかというようなことに関しては全国平均と同程度でした。

二つ目、自尊感情と夢や目標を持つことについてです。自分ではよいところがあると思いますかという自尊感情等の問題に関しては全国平均とほぼ同程度でした。ただ、夢や目標を持っているかということに関しては、小学校は全国平均と同程度、中学校は全国平均を下回っている状況です。小学校も同程度といいますが、プラス・マイナス 5 ポイントの範囲に入っているというだけで、実はマイナスです。これは丹波市の一つの課題だと思っています。

三つ目、規範意識についてです。人が困っているときは進んで助けるであるとか、いじめはどんな理由があってもいけないと思うであるとかということに関しては、小学校・中学校とも全国と同程度でした。三つ目の困り事や不安があるときに、先生・学校にいる大人にいつでも相談できるということ

に関して、小学校は全国と同程度でありましたが、中学校は昨年度より少し下がりました。この辺は課題だと感じております。

四つ目、地域社会への関心です。数年前までは「地域の行事等に参加していますか」という設問でありまして、それは非常に全国と比べて高い値を保っていたのですが、設問内容が数年前から変わりまして、「地域や社会をよくするために何かしてみたいですか」という設問に変わっています。つまり参画意識を問うような設問に変わっています。このことに関しては、小学校・中学校とも全国と同程度でありました。

続いて、ICTを活用した学習状況です。「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」、「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」、「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」というような項目に関しては、小学校・中学校とも全国と同程度です。「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」、つまり1人1台タブレットを使って表現できるということに関しては、小学校は全国平均を少し下回っているという状況がありました。

続いて、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善です。「授業の中で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」といった項目に関しては、小学校・中学校とも全国平均と同程度です。

ただ、「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」という点に関しては、小学校は全国平均を下回っている状況です。この辺が学力の調査に関してリンクしてくる部分なのかなと思っています。

続いて、学習に対する興味・関心や授業の理解度です。「国語、算数・数学の授業の内容がよく分かる」、「国語、算数・数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ」といった設問に関しては、全て小学校国語、小学校算数、中学校国語、中学校数学において、全て全国平均と同程度でありました。

今後の対応です。各校においても、各校ごとの調査結果が学校に届いておりますので、調査結果、各校で分析を実施いたしまして、改善策を「学力向上具現化プラン」にまとめ、授業改善を進める予定にしております。

また、校長会において、本年度の調査結果の分析結果、もう少し詳細なものを報告させていただいて、丹波市全体で目指す授業改善の方向性及び児童生徒に身に付けさせなければならない資質・能力についての共通理解を図っていきたいと思います。

ページめぐりまして、3点目です。2学期、指導主事訪問を行いますので、指導主事訪問において、各校における授業改善の進捗を把握するとともに、目指す児童生徒像に迫る授業の共有を図っていきたいと思っています。

4点目、市教委において、調査結果公表資料を作成して、10月下旬に公表したいと思っています。

5点目、各校においても調査結果の公表資料を作成して、11月中旬頃に公表したいと思っています。小学校3学年から中学校2年生の児童生徒を対象に、今度は丹波市独自の丹波市学習定着度調査というのを12月に実施いたしまして、改善の成果を図りたいと思っています。

なお、本年度についても、丹波市として学力調査の数値の公表は行わない方向でいます。以上です。

(片山教育長)

それでは、ただいまの報告につきまして、委員のほうから何か質問はござ

いませんか。

(中川教育委員)

先ほど文科省と学校教育のずれがあるのではないかと、という分析をお伺いして、納得したのですが、それって、でも高校入試が変わらないと、学校の先生たちが教えることは変わっていけないと思うので、今、過渡期にあるという感じなのでしょうか。それともやっぱり、どんどん国の方針と現場はズレていくという感じになっていくのですか。

(山本教育部次長兼学校教育課長)

特に中学校現場は非常にジレンマを抱えているという状況です。国の目指している学力、新しい学習指導要領が目指している学力というのは学校も十分理解をしています。十分理解していますが、やっぱり子どもたちの進路を確保しなくてはならないということがあって、兵庫県の高校入試の問題、私も毎年、解いていますが、簡単に言うと、兵庫県内の全ての学校、もう定員割れをどんどんしているような学校から、言うなら、もうトップクラスの学校まで同じ問題を使います。となると、非常に低位の学校でも差を出さなければならぬし、高位の学校でも差を出さなければならぬので、とても簡単な問題からとても難しいものまで、教師が解いても難しいと思うような問題までが、問題の中にちりばめられています。そうなったときに、やはり学校としては全員の進路を確保するとなったときに、一番簡単な問題を何問解けるかが勝負になるのです。ですので、先ほど言ったように、一次方程式が解けるとか、錯角や同位角、対頂角なんかを使って角度を求めることができるであるとか、正の数、負の数の分数の計算ができるであるとか、そういうところを絶対に外せないと思っています。

ただ、中学校の今回の数学の問題を見たら、そういう問題は1問も出ていないという状況の中であって、高校入試の問題も10年前と比べたら、少しずつ変わりつつありますが、どうしてもそういう特性がある以上、変えきれないところもあって、これからどう入試制度が変わっていくのかということは注目したいと思っています。

大学入試に関しては、推薦とかAOみたいな入試制度も非常に充実してきているので、問題自体もセンターだけではなくてきている。進路を確保するということに関しては。その辺が、高校がどう変わっていくかなというところは注視していきたいと思っています。

(片山教育長)

よろしいですか。ほか、ございませんか。

(吉竹教育長職務代理者)

今のご質問と説明に関連して、改めて聞くのですけれども、文科省の学力の捉え方と学校の学力の捉え方が違うので、課題についての整理については、今後、検討していくという旨の説明があったのですが、今のその話を聞いていて、もう一つ分かりにくいところがありました。学力をどういうふうにか考えるかというのが一番大きな問題かと思うのですけれども、文科省が言っている学力と学校が考えている学力が違います、ということになったら、これはいろいろなずれを生じると思うのです。学力の捉え方が違うのですということで、市教委が今回の調査の結果、課題をこれから整理しますという段階になると、次どういうふうに進んでいくか。

それに付随してお尋ねするならば、教育委員会として、丹波市の子どもにとって必要な学力はどういうふうにか考えていくのかということにつながると思うのです。それを基にして、県教委になり文科省のほうにも、こういうふうにか考える必要があるのではないかと、また学校現場についてはこういう学力を今後、丹波市としてはしっかりと身につけさせていく方向で進めていきたいと思います、授業改善もしていきたいと思います、そういう一定の方向が必要になるのではないかと、今お話を聞いて思ったのですが、その点はいか

がでしょうか。

(山本教育部次長兼学校教育課長)

文科省が考えている学力と、現場で考えている学力が違うという言い方は間違っています。訂正させてください。

あくまで、全国学力・学習調査の問題も学力の一部分ですし、高校入試に必要な学力も学力の一部分です。ですので、文部科学省が先ほど言った、例えば中学校数学で角 x の大きさを求めなさいということを身につけなくてもよいと言っているわけではないです。学習指導要領の中にも、基礎的・基本的な知識・技能ということがありますので、その部分も大事にしていかななくてはならないことは当然のことです。

ただ、国が今、重視している学力の一部分をこの問題の中に反映させているといったことがちょっとうかがえますということです。国が今、新しい学力観で言っているのに、基本的な知識・技能に関しては今後AIとかも発展していて、コンピューターを使ったら出てくると。それ以上に新しいものを他者と協働して生み出すような力、資質・能力が必要だというようなことを言っています。

ですので、今回の問題文の中に、対話文みたいなことが非常にたくさん多用されていたり、説明をしたりとか、あなたはなぜこう考えたかという考え方の根拠を問うような問題といったものが今回の学力調査の中には、学力の一部分として、たくさん出されていたと考えています。

丹波市教育委員会としては、双方大事な考え方だと思っておりますので、総合的に学力については考えていきたいと思っています。

ただ、先ほど言いましたが、二極化の状況はないものの、中間層が多く、上位層が少ないという傾向は常に、ここ数年続いている状況ですので、そういったその基礎的な部分ばかりに注視して、発展的な学力というところに力をもうちょっと注いでいかなければならないのかなということなんかは、この「主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善」ということをさらに進めていく中で補っていききたいと考えております。

(吉竹教育長職務代理者)

ありがとうございました。これは個人の感想になるのですが、中間層が多い傾向にあると。それはよいことか、悪いことかといったら、よいことでも悪いことでもない。必要なのは、その中間層のレベルをずっと全体的に底上げをしていく。そのために授業改善をどうしていくか。

今、説明がありましたように、12月ですか。今年も丹波市の学習定着度調査を実施されとお聞きをしましたが、その問題の中身といいましょうか、傾向といいましょうか、そのあたりは丹波市独自で作成ができるものなのですか。

(小森学校教育課参事)

業者に委託しております。こちらでは問題は作成しません。

(吉竹教育長職務代理者)

作成はしないけれども、こういう方向で作成をしてくださいという、そういうことはできるのですか。そうでないと、丹波市が狙う、先ほど説明をされたことを反映できるように、全国学力調査は全国学力調査の分であって、そうでなくて、丹波市独自でやる分については、その観点を入れた調査にしていくという流れが必要なんじゃないかなと。今、説明を聞きましたら、全部委託とすると、委託をされたところが問題を作って、これをしてくださいということになると、それ、意味があるのかなと。そう思うのですが、その点はいかがですか。

(山本教育部次長兼学校教育課長)

丹波市学力学習定着度調査に関しては業者のものを使っています。これも全国的に割とたくさん使われている調査でして、全国比較で見るとということ

も勘案して業者の調査を使っている状況です。吉竹委員の言われることは、十分理解できますが、そういう形で、ここ例年、丹波市の学力調査を行っています。

(片山教育長)

ほか、ありませんか。

(上羽教育委員)

41ページの「困り事や不安がある時に、いつでも相談できる」の、中学生が全国平均を下回っているというのは、これは著しく下回っているのか、多少、少しなのかというのを教えてもらっていいですか。

(山本教育部次長兼学校教育課長)

著しくの基準がちょっと難しいのですが、いわゆるプラス・マイナス5%を全国平均と同程度と捉えておりまして、そこより少し下ぐらいの感じです。

(上羽教育委員)

それが多いのか少ないのか、僕もちょっと5ポイントというのが分かりませんが、これやっぱり結構それって問題じゃないのかなと思っています。これは、ここで1回、言うか、言うまいかってずっと思っていたことなのですけれども、僕は今回、入学式に行かせてもらったときに、大声をあげておられる先生がおられたのですね。生徒さんに。その一部分しか見ていないし、その一瞬しか見ていなかったの、ふだんが分からないから、こういうこともあるのかなと思いつつ、でも、あまり気分がいいものではなかったというのを今年、体験したのを、このアンケートを今、見て思い出したのですよ。そういえば、あれでは言えないよな、みたいな気持ちも。今ちょっと、ふとこれを見て思い出したので。その5ポイントというのがどうなのか分からないのですけれども、いろいろな問題が起きている中で、一番身近な大人に相談できないというのは、やっぱり大人として重く受け止めなあかんところではないのかなというのは感じたので、学力調査のところからのはずれてくるかもしれないのですが、ちょっと思ったので、意見させていただきます。

(山本教育部次長兼学校教育課長)

実際そういう指導があるならば、改めなければならないとは思っています。ただ、特に中学校現場においては、複数の教師が子どもたちに関わるので、やり方は問題だとは思いますが、怒り役の先生、相談聞き役の先生みたいな役割分担をしている部分もありますので、複数の教師の誰かとつながっておくことができるという体制づくりが大切なのだと思っています。

このことに関しては、いじめの調査でも同じような設問がありますので、各学校に対して常に言っていることではありますし、今後も改善を図っていきたいと考えています。

(片山教育長)

多分、この前、聞いた結果だと、一番先に相談するのは先生で、そこが一番多いのは事実です。全体の数、親、友達、先生といったら、教師が一番多いということではあります。

ほか、ありませんか。

(吉竹教育長職務代理者)

今回の説明を聞いて、評価ができるというか、いいところもあるし、改善はしないといけないところもある説明を聞いたのですが、ずっと通して、こうして見てみましたら、自分の考えを伝えるというところがずっと何回も繰り返して黒丸のところに出てきている。それはやっぱり大きな課題だと思うのですね。

さっき学力の話が出ましたけれども、学力で一番大事なのは、これから自分の将来をしっかりと力強く生きていくための力をどうつけていくかということにあるのではないかと個人的には思っています。足し算、引き算ができるということも大事ですが、それ以上に自分はこうなのだ、こうありたいと

いう気持ちを強く持って、それを表現して伝えていって生きていくという、そういう力が大事なのだろうなと思っていますが、この部分が総じて、国語も算数も数学のところでも結構、出てきていますので、それを大きなポイントとして、それを授業改善であるとか、授業だけじゃなくって、指導改善、さっき上羽委員が言われたことも含めて、児童生徒との接し方の改善、役割分担というようなこともありましたが、それも含めて、学校としての組織としてどう指導を改善していくかということが大きな課題になっていこうかと思えますし、それがもう何年かけても完成するというものではないかと思えますけれど、ぜひそのあたりのところを、機会を見つけて学校のほうに伝えていただけたらありがたいなと思います。

それと、もう1点は、少し気になったのが、40ページの「夢や目標を持っていますか」という問いに対して、中学校で全国平均を下回っている。どの程度、下回っているかというのは分かりかねますけれど、この部分が平均を下回っているというのはちょっと寂しいというか、残念だなと思っています。

教育振興基本計画の中で、丹波に愛着を持って、そして将来的にこうありたい、こういう人になりたいということを今、検討されているということをお聞きはしましたが、その根底にある子どもたちが、今の中学校の時点で、夢や目標は取りあえず持っていないというのはどうなのだろう。小さなことでもいいので、その子なりのそれなりの夢や目標を持てるような、そういうことがどうしたらできるのだろうということも、一つの課題として捉えていただいて、学力だけでなく、生活全般の中で、保護者も含めて、地域も含めて、丹波の教育というものを考えていく必要があるのかなと。そんなことを今日の説明を伺って思いましたので、また、よろしくお願ひしたいなと考えます。

(山本教育部次長兼学校教育課長)

まず、1点目の自分の考えを表現するということに関してなのですが、自分の考えを言えてない、授業の様子を見させていただいて、発表できていないわけではないです。発表する子は多いのですが、先ほど言ったように、拙いです。考え方の根拠を発表するであるとか、筋道立てて発表するであるとか、そういったこと、伝わるように工夫して発表するとか、そういうところが非常に弱い。そこは授業改善の中で、今後、重視していかなければならない部分だと思っています。

もう1点です。夢や目標のことなのですが、先ほども言わせていただいたように、ここ数年間、連続して低いです。ここは課題だと思っています。

実は昨日、子ども・子育て会議とあって、こども計画をつくる会議に、私、出ていたのですが、その中で、夢に関してのアンケート、中2と小5に取っていたのです。一つは、今の生活は充実していますかみたいなことに関しては非常に高いのですよ。現状に満足している。そこそこの生活ができればいい、という意識なのかなということは、1点、思います。

もう一つは、夢や目標を書いている、子どもたちが書いている内容を見たら、プロ野球選手とユーチューバーが非常に多いという小5の傾向があります。中2に関しても、何ていうのですか、昔の田舎の人みたいな立身出世みたいな夢を持っている子というのはあまりなくて、お金に困らないようになりたいとかというような、大きな夢は持っていないけど、現状維持できたらいいみたいな、そういう夢がない感じが昨日の調査から、まだ詳細には見ていないのですが、見てとれました。

この辺も、その部分に関して一つは、今の丹波市の生活をよしと捉えているということプラスに見ることもできますが、将来への展望であったり希望であったりということも、学習をしていく上でも非常に大切だと思いますので、どういうことができるのか、今後考えていきたいと思っています。

(中川教育委員)

何というか、考え方が拙いというか、深くないとか、それとか将来の具体的な展望を持っていないとかって学校だけの責任じゃなくて、家での会話とかも大きいのではないかと思います。ここは大学がない市だから、大学に行こうと思ったら、おのずとこの市を出て行って、一人暮らしなり、寮生活なりすることは、もう自明の事実なのに、そういう展望を持たずに、中学生を送っているのかなと。それって、親がやっぱり、もう高3で一旦この家、出るのだから、もっと世間に目を向けなさいとか、ニュース見なさい、じゃないですけど、一緒にニュースを見ながらディスカッションするとか、何というか、おうちでの語彙を増やす、興味を増やす働きかけみたいなのが足りているのかなという気はします。

先生たちには本当に頑張っていていて、学校だけで全部そんなこと賄えるわけがないから、やっぱりお家の方針が、会話の語彙が少なかったり、内容が浅かったりするというところもあるのではないかと思います。先生方だけのせいじゃないとは思いました。

(片山教育長)

ありがとうございます。ほか、ございませんか。

先日、吉竹委員と中川委員と行った研修会の中で、鳴門教育大学の藤村裕一先生が、秋田県の学力が高いという話をされました。ICT、例えばタブレットを使うのだけれど、そのタブレットを使って、どう対話をしていくのかとか、考えていくのかというようなことを随分やっているという話、簡単に言うとそういうようなことで、知識を得るために使うだけではないと。考えさせるためにどう使うかという工夫を、秋田県はよくやっていますよということと、私がキャッチしている情報では、秋田県は、底辺の子に力を入れる。だから、学力が全体的に高くなるということは、毎年、聞いているのです。

だから、かといって、その中学校・高校行って、高校出たときに、いわゆる難しい大学にたくさん入っているかと言ったら、そうでもないというところもあるんですけど、何がどうなんかなんかということでははっきり言えないところもあるのだけれど、ただ、考えて物事を言うだとかというのは、もうずっと言われている、これからの社会、VUCAの時代と言われている非常に難しい時代の中で生きていく力ですので、今、中川委員がおっしゃった、家庭でもそうですし、学校でもやっぱりそういうところあたりは十分気をつけていくべきではないかと思うのと、先ほど入試とか学力の調査の話が出ていましたが、これからは、恐らく大学の入試も全部変わってくるのではないかと考えて何かをやるというふうに、多分それに準じて高校も変わってくる。先ほど委託すると言われたけれど、その検査内容も恐らくそういう内容が多くなってくるのではないかと思いますので、また、状況を見ながらですが、丹波市も今、授業改善は指導主事の者がみんな頑張って、一生懸命やっていますので、ちょっとずつでもいい傾向に行っているのではないかと私は思っていますので、先ほど言った、藤村先生が言われたような内容はどんどん取り入れていったらいいのではないかと思いますし、それ行っていると思っていますので、ご理解いただいたらと思います。

こういうものの結果というのは、そのときの状況によってというのはちょっと若干、違ったりしますので、よろしく願いしたいと思います。頑張っていきたいと思います。

ほか、よろしいですか。

(4) 令和6年度9月補正予算の概要について

(片山教育長)

それでは、続きまして、(4) 令和6年度9月補正予算の概要について、お

願いいたします。

(足立教育総務課長)

それでは、9月補正予算の概要について報告をさせていただきます。資料は43ページでございます。

まず、①番のところでございますが、小学校統合準備事業となりますが、令和8年度に統合します吉見、三輪統合小学校に係る工事のうち、統合改修と増築ということで、改修と増築の部分になりますが、その工事に係る工事請負費と工事監理業務の委託料を、2年間かかりますので、令和6年度予算としては4,037万4,000円、令和7年度の債務負担として、1億181万1,000円を提案するものでございます。

次に、学校教育課から報告をいたします。

(小森学校教育課参事)

②教育情報化事業について、下の概要を書いておりますけれども、令和2年度に導入しました小中学校児童生徒1人1台タブレット端末の更新に係るものでございます。

文部科学省のほうから方針が示されまして、各都道府県単位で共同調達を行うようスキームが発表されております。先日も参加してきたのですが、兵庫県においては、兵庫県教育委員会及び県内の市町村で構成する兵庫県教育の情報化推進協議会がプロポーザル契約を行うことになっております。それに伴いまして、令和7年度債務負担として、2億8,198万5,000円を計上するものでございます。

(片山教育長)

それでは、ただいまの報告につきまして何か質問はございませんか。質問がなければ、令和6年度9月補正予算の概要について終わります。

日程第6

その他

(片山教育長)

日程第6、その他に入ります。その他、各課から連絡はありませんか。ないようですので、その他を終わります。

日程第7

次回定例教育委員会の開催日程

(1) 定例教育委員会

(片山教育長)

日程第7、次回の定例教育委員会の開催日程について、事務局からお願いいたします。

(足立教育総務課長)

次回の定例教育委員会は9月26日木曜日、午前10時からの開催でお諮りします。

会場につきましては、丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアム2階多目的スペースでございまして、今回につきましては、移動教育委員会として開催したいと考えております。

(片山教育長)

場所が異なるのですが、各委員さんの皆さんのご都合はいかがでしょうか。石生駅の近くです。

それでは、9月の定例教育委員会は、9月26日木曜日、午前10時、丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアム2階多目的スペースで移動教育委員会として開催いたします。

以上をもちまして、全日程が終了いたしましたので、本日の定例教育委員会を閉会いたします。ありがとうございました。